

1. 育成のねらい

県育成チューリップの花型のバリエーションを増やすため、ユリ咲きの中でもさらに花弁が細長い珍しい花型を有する品種を育成する。

2. 育成経過

平成8年：交配



平成14年：初開花、初選抜



平成22～24年：系統特性検定試験
系統名付与「砺波育成130号」



平成25～30年：特性検定試験



令和元年：品種登録出願

♀ 星の願



×



783粒



26系統



「砺波育成130号」



「紅つるぎ」

♂ Double Price



3. 品種の特徴

- ・赤のユリ咲き
(花弁が従来のユリ咲きよりも細長い特徴的な形状)
- ・1～2月出荷の切り花栽培が可能

(露地開花特性)

- ・露地開花期は4月中旬で、花の観賞期間は13日程度
- ・茎葉が強健で花壇植えに適している

(球根収量性)

- ・球根収穫期は6月中旬
- 主球の肥大は「小」、分球性は「大」、
収穫量は「中」、ほ場裂皮の発生率は5%未満

(耐病性)

- ・土壌伝染性病害抵抗性は、
微斑モザイク病「やや弱」、条斑病「中」、
球根腐敗病「中」

(促成適応性)

- ・1・2月出荷の促成切り花栽培に適している



4. 販売までの経路

令和元年から県内生産者のほ場で原種増殖が開始され、令和3年に県球根組合を通じて生産者へ原種供給、令和4年収穫の球根より販売を開始